



東日本 被災者救援、原発撤退の年に 大震災 被災者救援、原発撤退の年に 区民の安全、くらし・福祉向上に全力!



特養ホーム増設決まる 共産党26回の本会議質問実る

やっと6つ目の特養ホームが春日1丁目の教育センター跡地に建設されることになりました。ただし、オープンは教育センターが湯島に移転後の2017年。800人に迫る待機者に6年「待て」というのです。



党区議団は、「ゆしまの郷」の誘致が決まって以来、8年間で26回の本会議質問を重ね増設を要求。今後、早期開設とさらなる増設を求めています。

B-ぐる 目白台・小日向ルート開通



待望のB-ぐる「目白台・小日向ルート」が12月21日開通しました。20分間隔で運賃は100円です。シビックセンターを起点に江戸川橋駅、目白台運動公園、護国寺駅、茗荷谷駅、小石川を結びます。

300円の「一日乗車券」は「千駄木・駒込ルート」と共通利用できますが、要望の強い二路線間の乗り継ぎ運賃の設定は今後の課題です。

保育園・育成室 やるべきは増設! 入室基準でさらに狭き門

育成室の入室審査基準が見直しされました。新たに、2年生は-0.8、3年生は-1.2。親の単身赴任は+0.5が+0.4へと微調整。親が精神障害の場合は新たに等級を提示し10点か8点とする。継続保育も、指数6以下や出席が50%以下の場合には再申請が必要です。

落とされた子は夏休みをどう過ごせというのか。「あの子を入れて、なぜうちが入れないの」—育成室が「狭き門」となる中、区には厳しい抗議が寄せられ、入れる子と入れない子の基準をもっと明確にする必要

があった—今回の改定の背景を区はこう語ります。

来年度は三中内に育成室が、白山2丁目に認可保育園が増設されますが、まだまだ足りません。しかも、育成室や幼稚園の保育料値上げまで「行革」で検討中です。イクメン区長の「子育て支援」がこれなのか。やるべきは指数いじりで振るい落すより保育所・育成室のさらなる増設です!



防災・放射能 対策万全に!



独自測定する共産党区議団

党区議団は、震災後4回にわたる区長への防災、放射能対策の「緊急要望」、区議会での質問を行ってきました。避難所となる学校のトイレの洋式化、聞き取りにくい防災無線の改善、避難所入口に誘導ソーラー灯設置、避難所運営協議会は区の責任のもと開設をするなどが実現しました。

測定器5台で区民が希望する場所の測定を

当初、「放射線測定はしない」「測定器は買わない」と言っていた区が放射線測定器5台を購入し、PTAや町会等の団体活動支援のため貸し出すことになりました。個人にも貸し出すべきです。

また、区は12月に区立小中学校、認証保育所を含め全保育園、福祉センターの70施設で提供している給食の放射線量を測定しました。1回だけでなく恒常的に調査するため、食品の測定器も区として備えるべきです。



根津神社にて 左より、金子てるよし、島元雅夫、いたくら美千代、高畑ひさ子、こうだ久美子、まんだち幹夫区議

未曾有の大震災・原発事故から10ヵ月。震災直後の区議選で誕生した新区議団は区民の皆さんと力をあわせ、放射線測定や測定器購入、災害対策、全小中学校の「トイレの洋式化」の流れをつくりました。

野田政権がすすめる「消費税

10%増税と社会保障の一体改悪」や日本の産業・経済と雇用・医療・食の安全を壊すT P P参加をやめさせ、区の貯金は増やし区民には負担増を押しつける区「行革」を見直し、区民の安全、くらしと福祉を向上させる大きな運動に取り組みます。

戸籍証明まで民間委託! 受益者負担の「行革」計画

区は新たな「行財政改革推進計画」を検討中。「民間活力の活用」として、戸籍証明書発行業務、勤労福祉会館や今後開設する児童館・育成室の民営化を打ち出しました。図書館につづき、最も公務性、専門性が求められる業務の委託は、個人情報保護の面からも重大であり、これ以上の民

間委託や指定管理者導入はすべきではありません。「使用料・手数料」の改定も提案しています。「受益者負担」のあり方を検討するとし、施設使用料や保育料などのコスト計算に人件費や施設の維持管理費などを組み入れます。「高い税金を払っているのに、そのうえ使用料が上がる。ボランティア活動にも



支障がでる。」などの声がかかるのも当然です。住民の福祉の増進をはかるべき自治体の役割が問われる大きな問題です。

区内の建物「高さ制限」第1次案に、区民説明会やはがき・メールで「反対・見直し」の意見が多数寄せられました。その多くは、全体に高すぎる、高層化による日影、風害、ヒートアイランドなど環境破壊の心配です。敷地統合と建物高層化による道路・駅等の再整備の課題も生じます。

第2次案が12月の都市計画審議会に示され、目白台、千石、西片、根津、弥生地域で22mが17mに、菊坂通りは31mが24mに、

絶対高さ制限
見直しを
春日・後樂園再開発は特別扱い

幹線道路沿いは47mを46mに下げたものの依然として高すぎる案です。

みどりと公園、坂道に特徴づけられる文京の風情ある景観を守り、住み続けられるよう抜本的に見直し、説明会も回数を増やすべきです。

この制限から除外される春日・後樂園駅前再開発は141mの超高層ビル建設計画。事業総額800億円超で、補助金は65億円、別に国から13億円の投入です。見直すのが筋ではないでしょうか。